

留学先の国や大学、専攻によって多くのことは異なると思いますが、日本語が母国語である場合、それ以外の言語での勉強をする上で多くの壁にぶつかることがあると思います。

もし留学先に言語サポートなどのサービスがある場合、是非必要なサービスを利用してみてください。

私の大学の場合は、学部のスタッフや教授が英語を第一言語としていない学生の学習状況をとてもよく理解してくれることから、授業についていくことができます。

（修士 英国）

本制度の受験を検討中の方には、自身の計画中の研究が現段階でどんなに未熟で、困難に思えても、果敢に挑戦することを恐れずにいただきたいです。

そして、その研究を発展させるのに最適な環境を選ぶことに時間と労力を惜しまないで下さい。適した環境にいれば、その研究は自ずと育ちます。

（修士 英国）

留学前に研究計画や生活の見通しを立てておいても、現地に来てから知ることや変化することも数多くあると思います。

計画通りにいかない場合にも自らを追い詰めすぎず、臨機応変に対応していくことが大切ではないでしょうか。

また実際に留学を開始してから大学の内外で様々な機会について知る、機会を得ることもあるでしょう。自分のこれまでの留學生活を振り返ってみても、積極的に行動する中で、思わぬ方向に道が開けてきたように思います。

（博士 英国）

Covid-19 の影響もあり、これから留学を予定している人、留学中でコースワークを受けている人は、多くの不安を抱えていると思います。こんなときだからこそ、留学中、今後留学予定の大学の関係者と密に連絡を取り、ひとりで塞ぎ込まないことが大事だと思います。みんなで協力して、乗り切りましょう。

（博士 アメリカ合衆国）

海外留学では想定外の問題が何度となく起きますが、そうしたことが起きた時は一人で考えすぎず、相談することが一番です。

（博士 英国）

留学準備中も留学中も何かとうまくいかないことばかりだと思いますし、思うようには行かないかと思います。誰でもそうだと思います。困ったときには、一人で抱え込まずに頼りにできる周りの人を見つけられるようにしてください。

（博士 英国）

海外大学院には様々なサポート（言語や学習）があるはずなので、積極的に利用して留学生活を乗り切ってください。

（修士 オーストラリア）

研究生活では生産性を最大限にしようと頑張る人が多いと思いますが、息抜きをすることがとても大切です。

私は息抜きをすることに罪悪感を感じがちでしたが、博士課程は長い道のりなので休みの取り方が重要になってきます。

つらいと感じるときは、一度休んで、エネルギーを補充するといいと思います。

（博士 英国）

異文化で生活する上で壁を感じたり、落ち込んだりすることが多々あると思います。

ですがそれも一つの学び、経験として必ず後々活かされてきます。

その苦しい時期は、自分の成長のために必要なことなのだと思います。努力を続ければ必ず成功につながります。私はこの留学生活で何度もそれを経験しました。

諦めず頑張ってください。

（修士 アメリカ合衆国）

米国の労働環境はシビアなものです。

まず外国人は就労ビザ取得が難しく、さらに実務経験がないと仕事が見つかりにくいです。

運と知り合いのネットワークが重要になってくるので、留学の経験で精神的にタフになることも大切です。

（修士 アメリカ合衆国）

大学院の勉強、特にコースワークは、英語を母国語としない我々にとっては最初の頃はついていくだけでも精一杯であり、家、教室、図書館を往復するばかりの生活が待っていると思います。

けれど、そういう時に一人で思いつめすぎず、同級生や教授に積極的に出来るだけ話かけてコミュニケーションをとることは、大学院生活をうまくやっていくために何よりも大事だと思います。アメリカの大学院は自分から働きかけないと基本的に放置されますが、逆に自分から働きかければ親切に対応してもらえるので、例えば授業中に発言できなかつたら後で教授のオフィスアワーに訪ねていくなどして、できるかぎり自分のことを知ってもらうように努力すると上手くいくことが多いと思います。頑張ってください。

（博士 アメリカ合衆国）